



厚生新編譯編初稿大意

大槻文庫

洋学文庫  
文庫 8  
A 214



譯編初稿大意

一 譯生貞由 職事を以て曆局の官舎に滞在すること已久し

是歳辛未春三月一日日官臣 高橋景保 を召して

官府御藏和蘭シヨメルといふ書八卷を發下し給ふ譯生貞由

をして別々此編全部を和解譯文して 上卯一き

嚴命を奉す景保その

命令を貞由傳ふ貞由 謹んで其

令旨番を承け退きこれを拜誦し熟思考究して従つて

譯文の草案を起すこと三閱月干時頃仲夏中浣仙臺候嚴

命あり其醫員陪臣 大槻茂實 として和蘭書籍和解御用工

從事せしむ一其業は臣 高橋景保 としてこれを謀一しと

仰下し給ふとなり茂實謹んで其



命を奉し局中より来りこれを景保に告す景保其  
旨を傳へて即ち曰ふ此嘗つて貞由

命せらるる所の旨メール和解の加功を為す一しとの御事  
なりと貞由其大に我力を得たることを感戴欣喜し尔  
後毎に茂實と相俱る力を戮せ益し其業を勉勵し貞由  
譯草を為して茂實に授く茂實これを読み再度貞由と  
會し原書を就て再校参訂して漸く譯稿を為せり  
但し其事物式ハ他の類説を傍書して本説を明すの助けと  
なすものもあるのみ

一 蓋し本編全部の宏博なる其業を卒る如きは許多の年  
月を積む一し依る式ハ三卷あるは五卷其草稿卷を為  
すに至れハこれを以て漸く  
御覽に呈上せんとす此毎卷一事一物各異を讀め臨時の

功用有る事なる一けりハなり  
一卷首標題ハ全部中集録云々



